



感謝をささげ、グルを崇拝する

ガウリー・マウラー

「 templeの中にいなさい」のサツツァング

シッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールでのライブ動画配信

2020年7月4日 土曜日

ナマステー。

シュブ・グループルニマー！

あなたは、グループルニマーを祝う、シッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールでの「 templeの中にいなさい」のサツツァングに参加しています。

ようこそ。

あなたが、この最も縁起の良い日をお祝いするためにここにいることは何と素晴らしいのでしょうか。実際、あなたは、バガヴァーン・ニッテャーナンダの光り輝く足元に座っているのですから、これ以上良い場所はありません

「 templeの中にいなさい」のサツツァングのために、シッダ・ヨーガの音楽や瞑想について、歌ったり話したりするセーヴァーをささげるのは、私にとって大いなる喜びとなっています。

グループニマー。シュリー・グルの満月です。この日、私たちは、コーティ・コーティ・プラナム(訳注:幾度ものプラナム)を、最愛なるグルマーイ・チッドヴィラーサーナンダにささげます。私たちはグルマーイをたたえ、私たちの内側に光をともしてくれたことに感謝をささげます。

皆さん一人一人に、どのようにシッダ・ヨーガのグルたち——グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダ、バーバ・ムクターナンダ、そして、バガヴァーン・ニッテャーナンダ——を知るようになったかについての、驚くべき物語があるでしょう。どのように、グルの恩恵の伝授を受け取り、体験したかについての物語も。どのように、あなたの人生が変容を遂げ、その恩恵のおかげで、あなたの人生がどう変容し続けているかについての物語も。あなたの物語は、あなたの内面、および外面の現実が、劇的な変化を遂げたことを表しているかもしれません。あるいは、あなたはより静かな展開を体験してきたかもしれません。私たちそれぞれの物語は、筋書きがどんなものであれ、鼓舞する物語です。それぞれの物語は、シュリー・グルの栄光を歌っています。グルの教えに従い、グルが私たちの内側に覚醒させた真理の光を育み続ける時、私たちのそれぞれの物語は続きます。

グループニマーの起源は、四つのヴェーダが確立された時期の、古代インドにさかのぼります。それは、ヴェーダを編集した偉大な賢人ヴェーダ・ヴァーサと、彼の弟子たちについての物語です。ある日、ヴェーダ・ヴァーサの弟子たちは、彼らのグルであるその賢人の元に行きました。そして、彼らにも世界にも惜しみなく与えられるグルの教えと恩恵に対し、それに見合う感謝と畏敬の念をどのようにすれば表わすことができるか、尋ねました。

彼らの願いを理解し、大いに気遣いながら賢人は、一年に一日、特にシュリー・グルを賛美するためにささげる日を選ぶことができる、その日には、彼らは、ささげ物をすることによってグルをたたえることができると、言いました。弟子たちはこの導きに大変感謝し、一年の満月の中で

も、最も満ちていて一番光り輝いていると考えられていたアーシャーダの月の満月の日を選びました。そして弟子たちは、この最愛なる機会を他の人々にも分かち合い、それがグループルニマー——グルの満月——として知られる伝統となりました。

ここ数日、私は、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムの上空に、満ちていく月を見ることを楽しみにしてきました。

このグループルニマーのお祝いに先立って、昨夜のシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムの上空の月の様子をお伝えしたいと思います。月は、雲の透き通ったベールに隠れながら、ゆっくりと静かにニッテャーナンダ湖の上に昇りました。西の空では、雨が降っていました。その時はまだ外はとても明るく、そのために、雨が雲を背景に美しいピンク色のもやを作りました。空はどんどん暗くなっていきました——それはベルベットのような青色に変わり——月は、より輝き、はっきりとしてきました。月はどんどん高くなって、昇りながら、何とも素晴らしいことが起こりました。月の光が、キラキラ光る黄金の道を水面に作り出したのです。

雨は降り続け、湖面にさざ波を立たせながら、その情景すべてを柔らかく輝きのあるものにしました。そしてそれから——木々の中からチラチラとした光が見えました。その後また別の光がチラチラと見えました。そしてまた一つ、そしてまた一つと、そこら中いっぱいになりました——木々の枝や、湖の周りの背の高い草の中に。

それはホタルでした…この夏、アーシュラムの敷地に初めて現れたのではないかと思います。夢の中の出来事のようにでありながら、すべて鮮明な現実でした。月。雨。淡いピンク色の雲。湖面の輝く光の道。ホタル。それはまるで自然が——そうです、グループルニマーが来ましたと——言っているようです。シュリー・グルに栄光を。

シッダ・ヨーガの道のウェブサイトでは、「Glimpses of the Waxing Gurupurnima Moon 満ちていくグループルニマーの月を垣間見る」と題された写真のギャラリーがあります。このギャラリーに目を見張るような写真を投稿して下さった皆さんへ——ありがとうございます！ さまざまな視点から、そしてこの惑星のさまざまな場所からの月相を見るのは最高です。

ウェブサイト上の写真について話しましたが、先の火曜日、2020年6月30日は、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトが開設されてから9年目の記念日でした。それはグルマーイが教えを与える主要な手段の一つです。シッダ・ヨーガの道のウェブサイト——教えの宝庫——で教えに取り組み、学ぶことで、何十万もの人々の人生が変容してきたことを想像するのは素晴らしいことです。グルマーイ、ありがとうございます。

グループルニマーを祝う「 temple の中にいなさい」のサツツァングで、皆さんはグル・パードゥカー・アビシェークに参加していきます。この儀式ではパードゥカーに沐浴(もくよく)、装飾、聖油をささげ、アーラティーを行います。

グルのすべてのシャクティはグルの足に宿ると、ヴェーダは言います。ですから、グルのパードゥカーは、そのシャクティを具象化し、放射するものです。グルのパードゥカーは、グルが授ける真の知識——「私はそれである、私は神である、私はグルと一体である、私は至高なる意識と一体である」という知識——の聖なる器です。パードゥカーを崇拝する時、あなたはその知識——グルはあなたの中に、あなたとして存在する——を崇拝しているのです。

このパードゥカー・アビシェークは、グルデーヴ・シッダ・ピートウで行われ、シッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールにいる皆さんへ配信されます。グルデーヴ・シッダ・ピートウは、インドのマハーラーシュトラ州にあるシッダ・ヨーガ・アーシュラムです。

私は 2018 年にグルデーヴ・シッダ・ピートウを訪れ、セーヴァーをささげるという大きな幸運に恵まれました。グルデーヴ・シッダ・ピートウの中の一つ一つの植物、それぞれのムールティ、一瞬一瞬が、シッダ・ヨーガのグルたちのシャクティで輝いています。そこを歩き、そこで教えてきた、そしてアーシュラムに計り知れないほどの愛を与えてきたグルたちの、広大な力を感じることができます。

パードウカー・アビシェークは、グル・チョークで行われます。グル・チョークはグルデーヴ・シッダ・ピートウの中庭で、そこで長年にわたって、グルマーイとバーバはたくさんの幸せな時間を過ごしました——講話や談話を行ったり、シッダ・ヨーガの生徒やアーシュラムへの訪問者にダルシャンを与えたりしました。グル・チョークではグルたちの存在の振動は明らかです。

崇拝の供物は、ビャクダンのペースト、ココナツとバラ水、花々、ダクシナー、そしてパンチャームリット、すなわち、牛乳、ヨーグルト、蜂蜜、ギー、砂糖が混ざった「五つのネクター」などです。これらの品物は、異なる資質——純粹さと吉兆、思いやりと親切、癒やし、強さ、甘美さと愛——を象徴しています。これらのささげ物で、私たちはグルに敬意を表し、そしてさらに、ささげ物が象徴する神聖な資質を私たちが養えるよう、グルの祝福を願います。



ブラーミンの司祭であるサントーシュ・ムドゥガルは、グル・チョークで神とグルを敬いたたえるマントラを朗唱しながら、パードウカー・アビシェークを行いました。この後、再びガウリーが話しました。

グルデーヴ・シッダ・ピートウの音と光景を楽しみましょう——グルにささげられた品々、バデ・バーバの前に座っているシッダ・ヨーギたちの集中、静けさ、鳥のさえずり。私たちは最も神聖な場所への巡礼をしました。

私が、シッダ・ヨーガの生徒として受け取るすべてについて熟考すると、とても自然に、与えること、ささげることへの願望が私の心から生まれてきます。多くの皆さんもこのように感じていることと思います。これが、ヴェーダ・ヴァーサの弟子たちがとても昔に感じたのことなのです。

これが、ささげ物、とりわけダクシナーをささげることが、グループルニマーとシッダ・ヨーガの道における伝統である理由です。私は、グループルニマーを祝ってダクシナーの修行に取り組むことで、あなたがシュリー・グルから学び、受け取ったものを敬うことに、私と共に参加するようご招待します。ダクシナーをささげるとは、グルに、彼女の慈悲深い恩恵に、彼女の貴重な教えに、そして彼女の尽きることのない愛に対して、私たちの感謝を表すことができる一つの方法です。

この吉兆なグループルニマーの時に、シュリー・グルのパードゥカーの神聖さについて、今日私たちが体験したことを心にとどめていただけますように。この体験を常に持ち続け、そして私たちの考え、言葉、行動の中にそれを輝かせられますように。

シュリー・グルに栄光を。

シッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールにいる一人一人の皆さん、シュブ・グループルニマー！

